

9月

生き生き韓国文化



秋
夕

추
석



秋夕(チュソク)

韓国では「더도 말고 덜도 말고 한가위만 같아라 / 多からず少なからず、いつも秋夕の日のごとくあれ（秋夕みたいにいつでも豊かによく食べ、よく生きられたら良いなという意味）」という言葉があります。こちらの秋夕（チュソク）というのは旧暦8月15日に称える韓国最大の祝日です。秋夕という漢字は韓国と北朝鮮だけで使われており、中国とベトナムでは「中秋節」という単語を使うそうです。韓国では秋夕の当日と前日、翌日を含めた3日が法定休日で、週末がある場合は振替休日を指定することもあります。秋夕の本意味は、収穫前にあらかじめ穀物を収穫し、先祖たちに祭祀を行い、豊作を祈るというのです。そのため、収穫をすべて終えて一年間の収穫を感謝する感謝祭の意味よりは、豊作を祈る意味の名節といえます。

そして、韓国では秋夕には故郷を訪れる風習があります。それで、毎年千万単位（ちなみに、韓国の総人口は約5200万人）が移動していますが、人口密集が深刻な首都圏から地方に帰省する時や首都圏に戻ってくる日は全国で交通渋滞が発生します。



写真1 交通渋滞が発生する秋夕当日の高速道路



写真2 秋夕当日の江南。混雑な普段とは違う様子



茶礼(チャレ)

年に2回、韓国の家がとても忙しくなる法事の席で、秋夕や旧正月(ソルラル)の朝に先祖の霊を迎えるための儀式のことを言います。茶礼では「茶礼床(チャレサン)」と呼ばれる20種類を超える食べ物をお供え物として用意します。そのため、親族の多い家ではこの前後が大変忙しくなります。

一方、故郷は北朝鮮だが、現在は韓国に住んでいる人を韓国では<失郷民>と呼びますが(主に朝鮮戦争の時に韓国に残された人たちで、70代以上の方々の中で多数分布している)、彼らは故郷に帰ることができない代わりに、佐世保市の姉妹都市である坡州市に位置する臨津閣や統一展望台など、北側の土地が見えるところで秋夕を過ごしたりします。



写真3 秋夕当日に行われる茶礼の風景



写真4 秋夕当日に行われる茶礼の風景

△写真/聯合ニュース



ソンピョン

「ソンピョン」は一般にその年に収穫した新米で作り、松の葉を下に敷いて蒸します。作り方は簡単で、一般家庭でも作ることができます。ソンピョンの代表的な中身は、胡麻(砂糖入り)、大豆、小豆、栗があり、地域によって中身や形が少し異なります。昔からソンピョンをきれいに作ることができる、かわいい女の子を授かると言われています。



写真5 色とりどりのソンピョン



写真6 一番人気の味、胡麻(砂糖入り)



秋夕の贈り物

韓国では秋夕になると、普段からお世話になっている人に贈り物をするのも決して外すことのできない重大なことなのです。そのため、この時期になると、デパート、スーパーが「秋夕贈り物商戦」で盛り上がります。日本のお中元・お歳暮に定番があるように、韓国の名節ごとの贈り物も、ある程度定番があります。代表的なものとしてはスパム、韓菓子、お肉、人参、イシモチ、蜂蜜、洗剤類のセットなどがあります。



写真7 秋夕の前から贈り物を販売するスーパー



写真8 一番人気のスパム&油セット



写真9 韓菓子セット



写真10 お肉セット

△ 写真/聯合ニュース、NAVER-SMARTSTORE

